

医師を夢みて

名古屋市立北一社小学校 六年 古川 みお

五年生の春、「電池がきれるまで」という本を読んだ。内容は、十歳の女の子が病気でたたく話だった。だけれども聞いたことのある言葉がその本にはかいてあった。
「途中で命を無駄にしてしまう人もいます。わたしは、命が疲れたというまで、一杯生きよう。」

この言葉が心の奥深くまで残った。今の日常生活が当たり前ではないということ、この詞を聞いた女の子のように苦しんでいる子がたくさんいることも分かったからだ。もっと生きたい、と思う子を支えたいと思い、そのとき医師になりたいと思った。

それから、私は心の病気について身近で触れる機会があった。心の病は目には見えないけれどがんなどと同じような病ということが分かった。母がそのとき、精神科医という職業があることを教えてくれた。もともと相談にのることが好き

だったのもあるし、臓器などが苦手だった私にはびったりだと思った。それから、精神科医になるための自分の課題を五つ考えてみた。
一つ目は、算数ができないことだ。医学部に入るためには数学ができないといけないと母から言われた。だから、これからは特に算数の基礎をしあげていこうと思う。

二つ目は、忍耐強くなることだ。精神科の治りようには長く時間がかかると言われている。わたしはすぐに知りたい、やりたいという気持ちになりやすいので焦らずゆっくりするように心がけ生活していきたい。

三つ目は、人との距離感をつかむことだ。精神科医は一人一人の患者に対して感情的になりすぎると自分のメンタルがやられてしまうことがあるらしい。だから温かい気持ちをもちながらも冷静でいることが大切だと思った。

四つ目は、コミュニケーション能力を身に付けることだ。精神科医の治りよう法は患者と話すことが中心だからだ。わたしは話題をふったり、話を続けることがやろうと思ってもできないので、大学生までにはコミュニケーションがうまくできるようになりたい。

五つ目は、英語力を高めることだ。今は日本に住んでいる外国人が多い。仕事や学校で悩みがなくても、身近で英語をしゃべれる人がいなくて、一人で悩みを抱え込んでしまうかもしれない。だから、外国人でも英語で安心して悩みを話せるよう、今のうちに英語をみがいていきたい。

まだまだ夢をかなえるには時間がかかる。だからこそ、医師になるまでの時間を大切に、今の自分が思い浮かべる医師になれるように、努力をすることが大切だと思った。将来、国や年齢関係なしに、悩みを抱えている患者さん達に気軽に相談してもらい、患者さんを笑顔にすることができると、そんな医師になりたいと、心に誓った。

古川 みお のライフプラン
将来なにになりたいか? 精神科医
その理由: 少しでも自分に相談して気持ちが悪くなるから。人から相談されるのが好きだから。

夢をかなえるまでのスケジュール

Table with 4 columns: Year (西暦), Age (年齢), Effort (夢をかなえるために努力すること), and Cost (努力するために、なににお金がかかりそうか). Rows show a timeline from 2023 to 2054, detailing educational goals like 'become a doctor' and 'earn money', and associated costs like 'exam fees' and 'living expenses'.

